

二年現代文『ころこ』夏目漱石 〈章ごとの課題について〉

1教科書159頁・上1行～161頁・上15行〈下〉36章

〈章の目標〉

- ①告白するに際してのKの様子を確認させる。
- ②Kから告白を聞かされたときの「私」の動揺ぶりを理解させる。

〈指定の問い〉

- ・「二六」(P一五九・上3)「不思議の感に打たれ」たのはなぜか。

Kがなかなか奥さんとお嬢さんの話をやめず、しまいには「私」が答えられないような立ち入ったことまで聞いたから。

- ・20・「二六」(P一六一・上4)「相手は自分より強いのだという恐怖の念」はなぜ生じたのか。

元来無口なKが発言した時には、普通の人以上の力があり、養家に勘当されても自分の意志を貫く有言実行の性格を知っているため、お嬢さんへの愛の告白はKの真剣な意志であると感じたから。

〈語彙〉

- ・注視(159頁・上9行)
- ・平生(159頁・上10行)
- ・口を破る(159頁・下4行)

2教科書161頁・下1行～163頁・上12行〈下〉37章

〈章の目標〉

- ①Kから告白を聞かされた「私」の後悔の様子を確認させる。
- ②Kの部屋を「私」の部屋の「仕切りの襖」の果たす役割を考察させる。

〈指定の問い〉

- ・21・「三七」(P一六二・上3)「午前に失ったもの」とは何か。

お嬢さんへの恋心を相手に告白して知らしめる主導権。

- ・「三七」(P一六三・上8)「魔物のように思えた」のはなぜか。

かつての姿からは想像できない行動をするKの心の動きが分からなくなり、不気味なものと感じられたから。

〈語彙〉

- ・分別(160頁・下3行)
- ・時機(161頁・下5行)
- ・手ばかり(161頁・下7行)

3教科書163頁・上14行～165頁・下4行（下）38章

〈章の目標〉

- ①食卓でのKと「私」の態度の共通点、相違点を整理させる。
- ②深夜の襖越しでのKと「私」の会話を整理させる。

〈指定の問い〉

- ・「三八」（P一六三・下12）「我々の態度」とはどのようなものか。
- 「私」がそつけない挨拶をし、Kが「私」以上に寡言であること。
- ・「三八」（P一六五・下3）「はっと思わせられ」たのはなぜか。
- 「私」の要求に素直に応じようとしない姿が意外だったので、もう「K」が「私」に相談することなく、一人で問題解決へ向けての行動をするのではないかと思ったから。

〈語彙〉

- ・容貌（163頁・上5行）
- ・寡言（163頁・下11行）

4教科書165頁・下5行～167頁・下3行（下）39章

〈章の目標〉

- ①Kの告白が奥さんやお嬢さんに伝わっているかどうかを確かめようとする「私」のやり方を確認させる。
- ②「私」がKに肉薄した内容とは何かを理解させる。

〈指定の問い〉

- ・「三九」（P一六六・下1）「盤上の数字を指し得るものだろうか」とはどのようなことか。
- 人間の胸の内を正確に示すことができるだろうか、ということ。
- ・「三九」（P一六七・上14）「思ったとおりを話してくれと頼」んだのはなぜか。
- Kの心のありようを全て理解したうえで、対応を考えようとする底意から。

〈語彙〉

- ・生返事（165頁・下5行）
- ・やむを得ず（164頁・下12行）
- ・手に取るように（165頁・上5行）

5教科書167頁・下5行〜169頁・14行〈下〉40章

〈章の目標〉

- ① Kが「私」を散歩に誘った理由を確認させる。
- ② Kが今悩んでいることの具体的内容をまとめさせる。

〈指定の問い〉

- ・「四〇」（P一六八・下9）「彼の平生」とはどのようなものか。
こうと信じたら一人でどんどん進んでいくだけの度胸もあり、勇気もあること。
 - ・「四〇」（P一六九・上4）「進んでいいか退いていいか、それに迷うのだ」とは具体的にどのようなことを言っているのか。
- 恋に突き進んでいいのか、恋をあきらめるべきか。

〈語彙〉

- ・挙動（166頁・上4行）
- ・肉薄（166頁・下12行）
- ・横着（167頁・上1行）
- ・所作（168頁・上2行）
- ・胸に一物（168頁・上11行）

6教科書170頁・上1行〜171頁・下8行〈下〉41章

〈章の目標〉

- ① 「私」がKに対してとった策略を具体的に整理させる。
- ② Kにとつての精進とは何か考察させる。
- ③ 「私」の言葉がKに与えた影響を理解させる。

〈指定の問い〉

- ・22.「四一」（P一七〇・上6）「要塞の地図」を「ゆっくり眺める」とはどのようなことを喻えたものか。

Kの心の虚を衝いて打ち倒す策略を探そうとする「私」の故意に満ちた気持ち。

- ・23.「四一」（P一七〇・上16）『精神的に向上心のない者はばかだ。』と言い放ちました」とあるが、「私」はこの言葉がKにどのように作用すると考えたのか。

〈語彙〉

- ・滑稽（170頁・上15行）
- ・宗旨（170頁・下6行）
- ・侮蔑（171頁・上3行）
- ・刹那（171頁・下4行）

7教科書171頁・下9行〜173頁・下5行〈下〉42章

〈章の目標〉

- ①この場面でのKと「私」を象徴的に占める比喻表現に注目させる。
- ②「覚悟」という言葉の持った影響力について考察させる。

〈指定の問い〉

・「四二」(P一七二・下6)「君の平生の主張」とはどのようなものか。
 「道のためにはすべてを犠牲にすべきもの」で、「摂欲や禁欲は無論、たとい欲を離れた恋そのものでも道の妨害となる」ということ。

- ・24.「四二」(P一七二・下15)「覚悟、——覚悟ならぬこともない」とあるが、

- ①「私」は「覚悟」の意味をどのように受けとったのか。

Kがお嬢さんへの恋愛を具体的に進めていくという覚悟。

- ②Kは「覚悟」をどのような意味で考えていたか。

お嬢さんへの恋愛をあきらめ、精進の道に戻るという覚悟。

〈語彙〉

- ・卑怯(171頁・下14行)
- ・萎縮(172頁・上8行)
- ・卒然(172頁・上13行)
- ・目がくらむ(172頁・上5行)

8教科書173頁・下6行〜175頁・下3行〈下〉43章

〈章の目標〉

- ①Kにとって「過去」のもつ意味を考察させる。
- ②深夜、仕切りの襖をあけえKが「私」に声をかけた理由について創造させる。

〈指定の問い〉

・「四三」(P一七四・下1)「Kの黒い影」という表現にはどのような効果があるか。
 不気味で不吉な印象を与える効果。
 ・「四三」(P一七五・下2)「妙な力で私の頭を抑え始めた」とはどのようなことか。
 Kの用いた「覚悟」という言葉が「私」に不安をもたらすようになったということ。

〈語彙〉

- ・暗闇(174頁・下14行)

9教科書175頁・下4行(177頁・上15行)下44章

〈章の目標〉

- ①「覚悟」の言葉が「私」にとってどのように変化したのか確認させる。
 - ②奥さんと談判するために「私」がとった方法を理解させる。
- 〈指定の問い〉

・「四四」(P一七六・上1)「はっと驚きました」とあるが、なぜか。

果断に富んだKの性格が、恋の方面に発揮されるのか彼の覚悟だと思い込んだから。

・「四四」(P一七六・下1)「仮病をつか」ったのはなぜか。

Kのお嬢さんのいない時を見計らって奥さんにお嬢さんとのことで談判を開こうと考えたから。

〈語彙〉

- ・果断(175頁・下4行)
- ・屈託(176頁・下13行)

10教科書177頁・上1行(179頁・下14行)下45章

〈章の目標〉

- ①「私」の唐突な結婚の申し出に対し、奥さんが落ち着いていたのはなぜか、考察させる。
 - ②話が簡単かつ明瞭に片付いたのはなぜか理解させる。
- 〈指定の問い〉

・「四五」(P一七七・下1)「自分のうそ」とは何か。

「あな谷は何かおっしゃったんですか」という奥さんの質問に対して、「いいえ」と「私」が答えたこと。

・「四五」(P一七九・上2)「本人が不承知のところへ、私があの子をやるはずがありませんから」という発言からどのようなことが想像できるか。

お嬢さんは「私」との結婚については承知している、ということ。すなわち、奥さんはあらかじめお嬢さんとその話をして、本人の意向を確かめていた。

〈語彙〉

- ・拘泥(178頁・下18行)

11教科書180頁・上1行～181頁・下13行〈下〉46章

〈章の目標〉

- ① 「私」がしばらくKのことを忘れ、やがてKに対する良心が復活するまでの過程を整理させる。
- ② 「なんにも知らないK」「なんにも知らない奥さん」「私だけが全て知っていた」の意味する内容をそれぞれ考察させる。

〈指定の問い〉

- ・「四六」(P一八〇・下5)「Kに対する良心が復活した」きっかけは何だったのか。
 - 「私」が帰宅した際に、Kから「病気はもういいのか。医者へでも行ったのか」と聞かれたこと。
 - ・「四六」(P一八〇・下17)「私の自然」とは、何か。
- 良心の命令に従う自然の心の動きのこと。

〈語彙〉

- ・時分(180頁・上10行)
- ・書見(180頁・下8行)
- ・手ずれのした(180頁・上3行)
- ・吾知らず(180頁・上9行)

12教科書182頁・上1行～184頁・上7行〈下〉47章

〈章の目標〉

- ① 「私」がKになかなか事実を伝えられなかった理由も考察させる。
- ② 事実を知らされた時のKの態度、および心情についてまとめさせる。

〈指定の問い〉

- ・「四七」(P一八二・下4)「倫理的に弱点を持っている」とはどのようなことか。
- Kを出し抜いて、お嬢さんとの結婚を奥さんと決めたこと。
- ・25・「四七」(P一八三・上1)「正直な道を歩くつもり」というが、この『正直』とは、どのようなことについて言ったものか。

「私」がお嬢さんが好きだという感情を偽らず、その気持ちを満たそうとするままに行動したこと。

〈語彙〉

- ・詰問(182頁・下12行)
- ・一分一厘(182頁・下17行)
- ・窮境(183頁・上6行)
- ・胸が塞がる(184頁・上6行)

〈章の目標〉

No. ころこ

① Kが自殺をする際に仕切りの襖を開けておいた理由を考察させる。

② Kが言う「もつと早く死ぬべき」とはいつの頃をさすのか考察させる。

③ 「私」がKの遺書を人目につくようにした理由を考察させる。

〈指定の問い〉

・ 26. 「四八」(P一八五・下5) 「まず助かったと思いました。(もとより…)」とあるが、

① 「助かった」と思ったのはなぜか。

Kがお嬢さんへ恋愛に悩んでいることを知りながら、私がKを出し抜いてお嬢さんに求婚したことを非難するような内容がKの遺書には書かれていなかったから。

② また、それが「世間体の上だけ」なのはなぜか。

私のKに対する罪深さは消えたわけではないのに、奥さんとお嬢さんにはKを出し抜いた私の狡猾さが知られず、面目が保たれているにすぎないから。

・ 27. 「四八」(P一八六・上2) Kが「お嬢さん」のことを「わざと回避した」のはなぜか。

生きて精進の道を進めず死を選んだのに、最後にお嬢さんを意識すると死の決意が鈍るから。

・ 28. 「四八」(P一八六・上5) Kが「もつと早く死ぬべきだ」と考えたのはなぜか。

精進という自分の第一信条がお嬢さんへの恋愛という煩惱に妨げられては、生きるに値しないと考えたから。

〈語彙〉

・ 血潮(186頁・下5行)

〈今後の予定〉

回	日程	内容
1	8月27日(火)	・『こころ』の内容確認 ・あらすじリレー
2	9月6日(金)	・グループ学習の概要 ・グループ顔合わせ ・グループではなく、個人で個人プリントに取り組む
3	9月7日(土) *70分	・考えてきた個人プリントを持ち寄り、グループで担当箇所について話し合う
4	9月27日(金)	・グループ発表をする「1班〜13班」
5	9月28日(土) *70分	
6	10月4日(金)	・グループ発表を踏まえて、記述問題に取り組む
7	10月5日(土) *70分	
8	10月11日(金)	*評論文を取り扱う予定。 追って、連絡します。
9	10月12日(土) *70分	

〈今後の予定〉

9	8	7	6	5	4	3	2	1	回
10月11日(金)	10月7日(月)	10月4日(金)	10月3日(木)	9月30日(月)	9月27日(金)	9月20日(金) *月曜授業	9月9日(月)	9月6日(金)	日程
*評論文を取り扱う予定。 追って、連絡します。		・グループ発表を踏まえて、記述問題に取り組む		・グループ発表をする「1班〜13班」		・考えてきた個人プリントを持ち寄り、グループで担当箇所について話し合う		・『こころ』の内容確認 ・グループ学習の概要 ・グループ顔合わせ ・グループではなく、個人で個人プリントに取り組む	内容

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」一番「・」「班

こころ No.

1教科書159頁・上1行～161頁・上15行〈下〉36章

〈章の目標〉

- ①告白するに際してのKの様子を確認させる。
- ②Kから告白を聞かされたときの「私」の動揺ぶりを理解させる。

〈指定の問い〉解答と根拠(思考の道筋)

- ・「二六」(P一五九・上3)「不思議の感に打たれ」たのはなぜか。

- ・20. 「二六」(P一六一・上4)「相手は自分より強いのだという恐怖の念」はなぜ生じたのか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・注視(159頁・上9行)
- ・平生(159頁・上10行)
- ・口を破る(159頁・下4行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」一番

「・」班

こころ No.

2教科書161頁・下1行～163頁・上12行〈下〉37章

〈章の目標〉

- ① Kから告白を聞かされた「私」の後悔の様子を確認させる。
- ② Kの部屋を「私」の部屋の「仕切りの襖」の果たす役割を考察させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・ 21. 「三七」(P 一六二・上3)「午前に失ったもの」とは何か。

- ・ 「三七」(P 一六三・上8)「魔物のように思えた」のはなぜか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・ 分別(160頁・下3行)
- ・ 時機(161頁・下5行)
- ・ 手抜き(161頁・下7行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」一番

「・」班

こころ No.

3教科書163頁・上14行～165頁・下4行〈下〉38章

〈章の目標〉

- ①食卓でのKと「私」の態度の共通点、相違点を整理させる。
- ②深夜の襖越しでのKと「私」の会話を整理させる。

〈指定の問い〉解答と根拠(思考の道筋)

- ・「二八」(P一六三・下12)「我々の態度」とはどのようなものか。

- ・「二八」(P一六五・下3)「はっと思わせられ」たのはなぜか。

〈オリジナルの問い〉解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・容貌(163頁・上5行)
- ・寡言(163頁・下11行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 班

こころ No.

4教科書165頁・下5行〜167頁・下3行〈下〉39章

〈章の目標〉

- ① Kの告白が奥さんやお嬢さんに伝わっているかどうかを確かめようとする「私」のやり方を確認させる。
- ② 「私」がKに肉薄した内容とは何かを理解させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・「三九」(P 一六六・下1) 「盤上の数字を指し得るものだろうか」とはどのようなことか。

- ・「三九」(P 一六七・上14) 「思ったとおりを話してくれと頼」んだのはなぜか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・ 生返事(165頁・下5行)
- ・ やむを得ず(164頁・下12行)
- ・ 手に取るように(165頁・上5行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」番「・」班

こころ No.

5教科書167頁・下5行〜169頁・14行〈下〉40章

〈章の目標〉

- ① Kが「私」を散歩に誘った理由を確認させる。
 - ② Kが今悩んでいることの具体的内容をまとめさせる。
- 〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

・「四〇」(P一六八・下9)「彼の平生」とはどのようなものか。

・「四〇」(P一六九・上4)「進んでいいか退いていいか、それに迷うのだ」とは具体的にどのようなことを言っているのか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・挙動(166頁・上4行)
- ・肉薄(166頁・下12行)
- ・横着(167頁・上1行)
- ・所作(168頁・上2行)
- ・胸に一物(168頁・上11行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 「班

こころ No.

6教科書170頁・上1行～171頁・下8行〈下〉41章

〈章の目標〉

- ① 「私」がKに対してとった策略を具体的に整理させる。
- ② Kにとつての精進とは何か考察させる。
- ③ 「私」の言葉がKに与えた影響を理解させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・ 22. 「四一」(P 一七〇・上6) 「要塞の地図」を「ゆっくり眺める」とはどのようなことを喻えたものか。

- ・ 23. 「四一」(P 一七〇・上16) 『精神的に向上心のない者はばかだ。』と言い放ちました」とあるが、「私」はこの言葉がKにどのように作用すると考えたのか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・ 滑稽(170頁・上15行)
- ・ 宗旨(170頁・下6行)
- ・ 侮蔑(171頁・上3行)
- ・ 刹那(171頁・下4行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番

「・」 「班

こころ No.

7教科書171頁・下9行〜173頁・下5行〈下〉42章

〈章の目標〉

- ①この場面でのKと「私」を象徴的に占める比喩表現に注目させる。
- ②「覚悟」という言葉の持った影響力について考察させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・「四二」(P一七二・下6)「君の平生の主張」とはどのようなものか。

- ・24.「四二」(P一七二・下15)「覚悟、——覚悟ならぬこともない」とあるが、

- ①「私」は「覚悟」の意味をどのように受けとったのか。
- ②Kは「覚悟」をどのような意味で考えていたか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・卑怯(171頁・下14行)
- ・萎縮(172頁・上8行)
- ・卒然(172頁・上13行)
- ・目がくらむ(172頁・上5行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 「班

こころ No.

8教科書173頁・下6行～175頁・下3行〈下〉43章

〈章の目標〉

- ① Kにとって「過去」のもつ意味を考察させる。
- ② 深夜、仕切りの襖をあけえKが「私」に声をかけた理由について創造させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・「四三」(P一七四・下1)「Kの黒い影」という表現にはどのような効果があるか。

- ・「四三」(P一七五・下2)「妙な力で私の頭を抑え始めた」とはどのようなことか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・暗闇(174頁・下14行)

二年現代文『ころこ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」番

「・」班

9教科書175頁・下4行〜177頁・上15行〈下〉44章

〈章の目標〉

- ①「覚悟」の言葉が「私」にとってどのように変化したのか確認させる。
- ②奥さんと談判するために「私」がとった方法を理解させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

・[四四](P一七六・上1)「はっと驚きました」とあるが、なぜか。

・[四四](P一七六・上1)「はっと驚きました」とあるが、なぜか。

・[四四](P一七六・下1)「仮病をつか」ったのはなぜか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・果斷(175頁・下4行)
- ・屈託(176頁・下13行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 「班

10教科書177頁・上1行～179頁・下14行〈下〉45章

〈章の目標〉

- ①「私」の唐突な結婚の申し出に対し、奥さんが落ち着いていたのはなぜか、考察させる。
- ②話が簡単かつ明瞭に片付いたのはなぜか理解させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・「四五」(P一七七・下1)「自分のうそ」とは何か。

- ・「四五」(P一七九・上2)「本人が不承知のところへ、私があの子をやるはずがありませんから」という発言からどのようなことが想像できるか。

- ・〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・拘泥(178頁・下18行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 「班

こころ No.

11教科書180頁・上1行～181頁・下13行〈下〉46章

〈章の目標〉

- ① 「私」がしばらくKのことを忘れ、やがてKに対する良心が復活するまでの過程を整理させる。
- ② 「なんにも知らないK」「なんにも知らない奥さん」「私だけが全て知っていた」の意味する内容をそれぞれ考察させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・「四六」(P一七六・上1)「Kに対する良心が復活した」きっかけは何だったのか。

- ・「四六」(P一八〇・下17)「私の自然」とは、何か。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・ 時分(180頁・上10行)
- ・ 書見(180頁・下8行)
- ・ 手ずれのした(180頁・上3行)
- ・ 吾知らず(180頁・上9行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 班

こころ No.

12教科書182頁・上1行～184頁・上7行〈下〉47章

〈章の目標〉

- ① 「私」がKになかなか事実を伝えられなかった理由も考察させる。
- ② 事実を知らされた時のKの態度、および心情についてまとめさせる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・「四七」(P一八二・下4) 「倫理的に弱点を持っている」とはどのようなことか。

- ・25. 「四七」(P一八三・上1) 「正直な道を歩くつもり」というが、この『正直』とは、どのようなことについて言ったものか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・詰問(182頁・下12行)
- ・一分一厘(182頁・下17行)
- ・窮境(183頁・上6行)
- ・胸が塞がる(184頁・上6行)

二年現代文『こころ』夏目漱石 個人プリント

二年「組」 一番 「・」 班

こころ No.

13教科書184頁・上8行～186頁・下5行〈下〉48章

〈章の目標〉

- ① Kが自殺をする際に仕切りの襖を開けておいた理由を考察させる。
- ② Kが言う「もっと早く死ぬべき」とはいつの頃をさすのか考察させる。
- ③ 「私」がKの遺書を人目につくようにした理由を考察させる。

〈指定の問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

- ・ 26. 「四八」(P一八五・下5) 「まず助かったと思いました。(もとより…)」とあるが、
 - ① 「助かった」と思ったのはなぜか。

- ② また、それが「世間体の上だけ」なのはなぜか。

- ・ 27. 「四八」(P一八六・上2) Kが「お嬢さん」のことを「わざと回避した」のはなぜか。

- ・ 28. 「四八」(P一八六・上5) Kが「もっと早く死ぬべきだ」と考えたのはなぜか。

〈オリジナルの問い〉 解答と根拠(思考の道筋)

〈語彙〉

- ・ 血潮(186頁・下5行)